

改訂版の序

本書の初版発行から5年あまりが経過しました。この間にエビデンス（実証論文）は世界的に急増し、日本からの報告も少しずつ出てくるようになりました。エビデンスという言葉がそのまま新聞などにも載るようになり、Evidence-Based Medicine（EBM）は着々と浸透してきているようです。しかし、その反面、統計学教育が貧なだけにエビデンスが商業主義や政治的策略などに流用されていることもあります。

本来、患者さん本位の医療では対話・客観的判断・安全性が欠かせず、EBMはそのような医療を提供するアクションです。また、統計学は臨床と研究をつなぐ言語の役割をし、エビデンスを正しく使いこなすための道具となります。この統計学の基本的本質を理解し EBMを正しく実践できるようになることがさらに重要になってきているため、このたび最新情報も織り込んでイラストを多用した一層わかりやすい解説へと改訂しました。さらに、私自身の国内外での臨床研究の実践や教育経験に基づき、エビデンスを創る観点からの解説も充実させて理解が深まるようにしました。教育指導にも役立つ内容であると信じております。

EBMは患者さんに始まり患者さんに帰着します。本書が、患者さん個人個人への最適な医療提供に役立つことを心より願っております。

【本書の構成・特長】

- ・入門編では統計学・疫学の基本概念を、実践編では検定の解釈と文献の臨床的活用のしかたを中心に解説しました。ケーススタディでは身近な生活習慣病等のエビデンスを検証・活用しました。
- ・通読しても辞書的に使用しても役立つよう工夫しました。
- ・冒頭に覚えるべきことをポイントとしてあげ、習得目標を明確にしました。
- ・末尾にまとめと参考項目があり、復習と発展学習に役立つようにしました。
- ・難易度の目安：
 - 学生・研修医・コメディカル
 - 研修医以上・コメディカル
 - 上級医・研究従事者

2011年6月吉日

能登 洋